

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：2025年12月20日

事業所名：児童発達支援 こぼんはうすさくら新潟中央教室（児発）

対象人数(保護者)29人 回答者数 27人 回収 93.1%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	7		2		・身体を動かす活動の際は広いスペースを作り、お子様の動きに支障のない環境を整えます。また、集中力の必要な机上課題は、テーブル、椅子の場所を変えたり、小スペースを作る等、お子様の活動に合う、環境設定をおこなってまいります。
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	21			6		・お子様の状況や活動内容に応じた人員配置で対応して参ります。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	3		2		・トイレ入口の段差はお子様の状況に合わせ、補助台を置き、低い段差にしたり、玄関前に椅子を用意し靴が履きやすい様配慮しています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	2		2		・来所するお子様の好きな遊具や発達に合う遊具の入れ替え、点検をおこなっています。 ・遊具の消毒は適宜行い、感染予防に努めます。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23			4		・専門性のある支援は確保しながら、チームでの支援となりますので、職員間の連携、お子様への対応の共有を念頭に支援をします。
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23			4		・支援プログラムはホームページに掲載されておりますので、ご確認頂き、ご質問があれば、いつでもお問い合わせください。 ・イベント、学習会、懇談会なども概ねの年間計画をご提示できるように致します。
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	27					
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25			2		・移行支援は就学前のお子様、ご家族の方のご不安の軽減が図れるよう、年長児向けのグループ療育の機会を設けております。
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	1		3		・療育のご様子はご一報いただければ、見学は可能です。支援計画内の支援に関しましては、いつでもお問い合わせください。
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1		2		・季節やイベント等に合う活動プログラムや静、動の活動をバランスよくおこない、お子様が楽しく参加できる活動を取り入れています。
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	6	4	7	平日は幼稚園に通っているので交流の必要性をあまり感じていません。 通い始めてまだその機会がないため	・地域のお祭りやイベントにも参加できる機会を作ります。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27					
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27					
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22			5		・就学前のお子様をお持ちのご家庭には療育に参加して頂く(お子様の療育を見て評価する)機会を設けております。 ・懇談会の企画、実施はおこなっておりますが、今後はご家族が参加できる専門職による研修会など企画致します。
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	25	2				・お子様のご様子をお話して頂きやすい様、職員一同、こまめにお声がけする様にして参ります。
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	3		3		・直接お話す時間のない場合は、HUGの連絡事項の機能をご活用頂き、子育てのお悩み等職員とやり取りをさせて頂くことも可能ですので、ご活用下さい。
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24	2		1		・療育プログラムを通し、お子様と職員、友達同士で楽しくおこなえる内容を取り入れ、共に共感しながら支援をします。
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	4	1	4	保護者会、きょうだいの交流の会はありませんが、現時点であまり必要だと感じていません。同じ障害のある子供を持つ親の会を紹介していただいたり、イベントにきょうだいの参加が可能であったりと十分に支援していただいていると感じています。	・イベントはご家族の方へのご参加も受け付けております。ごきょうだい同士の交流も大きなイベントの参加の中で関われるよう設定致します。
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25			2		・職員間で連携し対応して参ります。
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	1				・保護者の方は、お電話やHUGの連絡事項のツールをご活用下さい。また、お子様との意思疎通に関しましては、お子様のご様子に応じ、絵カードなどの視覚的な提示でコミュニケーションを図ります。
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24			3	Instagramでの活動報告を楽しみに拝見しています。	・個人情報を守りながら、ブログやInstagram等で活動のご様子を引き続きお伝えします。HUGの活動記録は全家庭一斉に送信できる機能ですので、災害時の連絡場所、状況等お伝え出来るようになっております。
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24			3		・事務所内の書庫は必要に応じ、鍵の開け閉めをおこない管理しております。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24			3		・契約時相談室内にあるマニュアルはいつでも閲覧可能です。また、ヒヤリ・ハットを出し合い、環境設定、室内の安全性を未然に防ぐようにしております。感染症実務研修、避難訓練、不審者対応訓練など年間計画でおこなっております。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	1		2		・避難訓練は2か月に一度のペースでおこなっております。年間計画立案の元、様々な状況での避難方法を訓練しています。
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25			2		・玄関の鍵の開け閉めは自動ではなく手動とし、人の出入りの際は職員が玄関内の鍵の開け閉め、確認をしております。
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23			4	通い始めてまだ起こったことが無いため	・怪我等が発生した場合、速やかに保護者の方に電話、もしくは送迎時に詳細をお伝えいたします。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	24	1		2	通い始めのため	・職員との信頼関係を構築し、職員がお子様の安全基地となる為に、一緒に遊び、お子さんの状況に合った声掛けや環境設定をおこないます。
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20	5		2	幼稚園の名称をまだ覚えられませんが、こばんのことは覚えているようで、こばん!と呼んで自分から出かける様子を見せ、支度も積極的に行います。通所のあとは、いつも笑顔で満たされて帰宅しています。 通い始めのため	・利用開始間もない時期はお子様もご家庭もご心配かと思います。「やってみよう」「できた」「うれしい」と思えるような活動をおこないながら、楽しくご利用頂けるよう精進して参ります。
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	26	1			船岡さんはじめ、職員の皆さんに暖かく、専門的な支援をしていただいています。息子は言語面でも生活面でも、運動面でも成長を感じます。運動面ではPTの大日方さんの支援や励ましをうけて、本人が積極的に楽しく取り組んでいる様子が見えます。個別支援計画や評価も、ここまで息子のことを詳しくみていただいているんだと感動する程の内容でした。プラス面は褒め、頑張る必要があることは親にもアプリを通して情報共有されていて、メリハリのある支援で良いところを伸ばしていただいていると感じています。	・お子様の小さな成長を見逃さず、共に歩みを進めて参ります。

公表日

2025 年 12 月 20 日

事業所名

こぼんはうすさくら 新潟中央教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・室内の活動ではグループ分けをし、安全にのびのび動けるよう工夫し、おこなっている。	・身体運動の際は広いスペースを作り、お子様の動きに支障のない環境を整える。また、集中力の必要な机上課題は、テーブル、椅子の場所を変え、小スペースを作る等、活動に合う、環境設定をする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・食事、排泄の生活動作で個別支援が必要な場合、ゆとりをもった対応ができる時間配分、人員の確保をしている。	・ドライバーを活用し、送迎人員調整を引き続きおこなう。 ・製作など安全に道具を扱う必要のある時間帯は人員を増やし対応する等、臨機応変に対応する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・教室の名前を明記したり、児が使用しない部屋の扉は入れないマークの表示をしている。 ・子どもが気持ちを落ち着かせる場所が療育室と区切っており、クールダウンしやすくなっている。	・玄関出入り口の送迎時、入退出の重なる部分は職員間で声を掛け、時差でおこなう。靴の脱着のスペースを小さな椅子を用意する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・毎日掃除をし、玩具等消毒している。 ・感触遊びなどで床に物が落ちていた時はすぐに活動掃除機をかける。	・こどもの状態や活動内容に合わせたバーテーション等で仕切りを作る等構造化の設定をしやすい状態にする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・こどもの状態に合わせ、個別で取り組める部屋を利用している。	・個別の部屋が制作物の準備の場所となっている日もあるので、制作物を準備する場所の確保をする。 ・常にゆっくり過ごせる環境を整備する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		・送迎終了後、療育の振り返りを行い、次の支援の配慮事項など共有し、次に繋げている。	・送迎時間帯が勤務時間間際になる為、振り返りの仕方や時間の確保が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・昨年度の評価表の保護者の方の御威光を踏まえ、気軽に見学して頂く回数が増えた。	・年間の大まかなイベントスケジュール等提示できる様、次年度計画を立て、実行する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・日々の療育を振り返るミーティングと月1回の所内、児発のミーティングを行う中で、職員間の意見交換している。 ・ヒヤリハットや苦情窓口を明確化し、職員内での共有に努めている。	・チームで支援にあたるので、提案や意見をすぐに形や行動に移せるようにする。シフト制なので、欠席者には必ず伝達する。(口頭、文書等で)
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	・本部のSVが客観的な事業所評価をおこなっている。	・第三者委員会の構成メンバーは本社と本部に確認を取り、設置を含め検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・昨年度の自己評価を元に外部講師による講習を開催で来き、具体的な現場での関わり、対応が共有できた。	・定期的に研修の案内はある。活用法、情報共有、受講する為の体制確保が必要。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・特に問題なし	・支援プログラムは作成、公表はされているが、周知が足りないので、各自支援プログラムに基づく具体的な支援を再確認する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・特に問題なし	・アセスメント項目の見直しをおこない、より職員の支援に生かせる計画づくりをする。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・特に問題なし	・次年度も状況に応じ、児発管も直接子ども達と関わる中で、職員に具体的に対応の助言をしたり、振り返りの中で、今の課題、支援を共有し、計画作成をしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・特に問題なし	・引き続き支援計画に沿った支援をおこなえるよう作成後だれの支援計画を作成したのか知らせ、すぐに職員間で共有する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・特に問題なし	・行動観察については記録を含め、毎日実施しているが、フォーマルなアセスメントは専門的支援として検討を要する部分もある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・特に問題なし	・地域支援・地域連携は地域のお祭りなど情報を把握し、参加できる様計画し実行する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・保護者の利用予約の前に、職員間で次のプログラム立案をおこなっている。	・活動プログラムは引き続きチームで立案をおこなう。またイベントの時期や内容や目的も踏まえチームで共有する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・週案、日々の日案を確認し、固定化しないように配慮している。 ・製作、運動、戸外遊びなど様々な活動を取り入れている。	・こどもの様子に合わせ、柔軟に新しいプログラムを取り入れる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		・メインプログラム、ミニプログラム、チャレンジタイムを取り入れている。	・引き続き小集団、個別の活動をバランスよく取り入れ、こどもたちの様子を見ながら適宜活動の組み合わせを工夫する。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・職員間での打ち合わせ（プログラム・役割分担・支援内容）をしている。	・実際の療育の中で連携を意識しているが、職員の対応に差が見られる為、職員の実践的な研修をおこなう。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・送迎後の振り返りはおこなっているが、勤務時間外で行う事も多い為、翌日の朝に振り返りのし、支援の共有をしてい	・シフト制勤務の為、共有事項は記録に付け、各自毎回確認し、療育準備をおこなう習慣を付ける。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・日案に環境設定（座席等の配置図）を記載している。	・環境設定では室内安全点検も含め、ヒヤリハットとして記載し、速やかに改善できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・特に問題なし	・日々の振り返りや療育に入中で、評価、支援内容を照らし合わせ、見直しをおこなう。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・特に問題なし	・身体的機能の部分で、他事業所、園と共有する必要があるが、機能訓練士等会議に参加し、支援の共有を図る。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・特に問題なし	・定期的に電話等で協力医療機関に状況報告をおこなうようにする。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		・特に問題なし	・ケースによって園との繋がりや強弱があるが、複数名同じ園に所属されている場合、園訪問の機会を頂けるよう働きかける。 ・こども園、幼稚園の先生方の見学が今年度増えたので、次年度も連携を継続する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		・児童管は入学支援ファイルを作成し、共有している。	・就学前より就学直後で、支援内容の共有依頼があるので、書面や電話などでも情報提供や関係者会議等にも参加する。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言を受ける機会を設けているか。	5		・地域の児童発達支援センターの研修は受講している。	・次年度も引き続き児童発達支援センターの研修受講や電話等で助言を頂ける関係づくりをおこなっていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	・時折、女池教室と交流し、地域の小学生と交流を持つ機会が作れた。	・公園、公共利用できる館内やこども園などの小学校、こども園等の園庭解放の情報を得て参加する。また地域のお祭りに参加できる様次年度情報を集め、参加する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・サービス提供記録や保護者のコメント等を活用している。	・送迎時に職員が療育内容や話を聴いたり、相談できる関係性を構築し、共通認識のもとでこどもの対応をしていく。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		・就学前のグループ療育の中で保護者の方が客観的にこどもの強み、弱みを把握できる機会を持てた。	・個別（運動）療育継続的な支援については今後も検討を要する。 ・専門職の視点でご家族が参加出来る研修会を企画し実施出来るようにする。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・特に問題なし	・支援プログラムはホームページを参照にして欲しいと伝える程度なので、今後はイベントや契約時に話ができるようにする。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・特に問題なし	・発達状況を踏まえながら、それぞれのこどもに合った聞き取り方で、事業所でしてみたいことを把握し、計画に生かせるようにする。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・特に問題なし	・児童発達支援計画の内容説明は今後も丁寧に説明し、保護者の思いを受け止めながら一緒に支援していける計画案を作る。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・個別療育やグループ療育を行う中で、子育ての悩みも含む話をし合える機会を作っている。	・ご家庭の生活状況に応じ、電話、見学、来所、HUGシステム内でのやり取りなどの様々なツールの活用や、話を伺い、助言出来るようにする。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	・イベント等を通し、保護者間の交流を深める機会を提供している。	・イベントや研修会の企画等で、きょうだいも参加できる人数や時間、場所の設定を考え、参加しやすい内容を取り入れる。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・送迎に関しては可能な限りルートの調整をし、送迎場所、時間の対応をおこなえた。	・引き続き、相談や申し入れに関して、真摯に受け止め、対応可能な体制作りを目指す。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・特に問題なし	・今後もInstagramやHUGシステムを活用し、活動内容や予定が分かるよう発信する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・個人情報保管するロッカーには施錠をし管理している。	・引き続き、Instagramやブログなどの発信は顔が分からない様編集をし個人特定が出来ない様配慮する。

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・特に問題なし	・コミュニケーションの取れる手段があればタブレット等も活用し、情報が伝わりやすくなる様な道具を活用する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	・今年度は女池教室が新設した為、遊びに行く機会を持つことが出来た。地域に開かれた運営努力をしていく。	・相談支援員の方にイベント等の案内をしていけたら良い。 ・他の地域のニーズを調査するなど市、新たな運営の視点にも配慮できるようにしたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・特に問題なし	・職員、保護者が各マニュアルを見やすい所（相談室や玄関に掲示）へ配置、設定する。 職員間は読み合わせの機会を作る。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・特に問題なし	・発生時、避難中、避難後の動きを具体的に職員が訓練する回数を増やし、職員一人一人が自分の行動、対応を振り、こどもの安全確保に留意する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・特に問題なし	・アセスメント時や個別支援計画面談時以外の日常の連絡事項や何気ない会話などでも特に服薬、発作に関して、いつ、どこで、どのような状況で、いつから、何を服薬しているのか聞き取りをし職員共有する。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・特に問題なし	・アセスメント時間き取り、食物アレルギーの子どもたちへの対応は医師の指示書に基づき、飲食の環境設定や個別対応をおこなう。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・特に問題なし	・次年度も「適切な安全管理をおこなうため、避難訓練、防災道具、持ち出し袋（リュック）の点検、室内の環境、安全点検は常におこなう。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・HUGシステムの活動記録で避難先や避難情報などが分かる様、HUGのアプリをインストールして頂いている。	・安全対策で訓練の一環として活動記録で避難場所を伝えることを改めて周知する。また、一斉送信する機会を持ち、災害時活用できる様ご協力頂く。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・所内、朝のミーティングなどでヒヤリハットを共有し、改善し、環境を整えている。	・引き続き、再発防止の策を講じた後の状況を全体ミーティング内で検証する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・動画研修で知識を深め、現場でケースカンファレンスをおこない、職員間で具体的な対応を共有している。	・次年度も自己点検や職員のメンタルヘルスの状況を把握し、職員への適切な支援もおこなう中で、研修時期も決め、実行する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		・特に問題なし	・今後も契約時、身体拘束についての説明をおこない、文面で確認を頂くようにする。必要な場合は支援計画に記載し、子ども、保護者に了承を得るようにする。